



みどり

第5号 令和6年9月6日



目指す児童像 ◇学び合う子 ◇思いやる子 ◇きたえる子

【緑小HP】

下野市立緑小学校 鈴木 寧子

～ 元気なあいさつ 輝くひとみ みんなが笑顔 みどりの子 ～

<「元気なあいさつ 輝くひとみ みんなが笑顔 みどりの子」を目指して～>

前期後半開始です！ 9月2日、学校に再び子供たちの笑顔と元気な姿が戻ってきました。長い夏休み期間、安全に過ごすことができ大変お世話になりました。ありがとうございました。

猛暑、台風、ゲリラ豪雨そして時折発生する地震など、落ち着かないニュースを聞きながら、長い夏休みを終えて子供たちはどんな気持ちで登校してくるだろうかと考えていました。久しぶりに入る教室、しばらく会わなかった友達や先生。「始めの一步」は少し緊張しているかな、宿題が気がかりな子もいるかな…。初日のお子さんの様子はいかがでしたか。これからは学校が子供たちにとって安心して登校できる場所であるよう努めてまいります。学校が再開する節目に、「夏休み明け放送」で今年も子供たちに1つ提案をしました。

毎日の学校生活の中で「自分っていいなをみつめてみませんか」
授業中、勇気を持って手を挙げて発表できた自分っていいな。
友達の発表をよく聴こうとしている自分っていいな。
協力してグループ活動をしようとしている自分達って素敵だな。
素直に喜んだり、感動したりできる自分って素敵だな。
しんどくても努力して頑張れる自分ってかっこいいな。
周りのことを考えて行動できる自分って成長したな。
毎日の学校生活のなかで、「こんな自分っていいかもしれない」「こんな自分を好きになれる」「こんな風にできる自分って成長したな」、このような自分に気付いてほしいと思います。



子供たちの心の中や子供たち自身には、「やさしさや思いやりの種」や「もっともっとできる・伸びる可能性の芽」があります。小さいいいな、小さな素敵をたくさん見つけ出し、今の自分をさらに大きな自分にさせる学校生活を送って欲しいと思います。そして、私たち職員はそんな子供たちの成長を支え、認め、励ましていきたいと思ひます。ご家庭でも機会があれば、「自分っていいな」について話題にいただけると幸いです。

<目指す児童像:学び合う子 思いやる子(確かな学力 豊かな心の育成)～よりよい授業を目指して～>

各種学力調査の結果について 4月18日(木)に実施した「全国学力・学習状況調査」(6年生)及び「とちぎっ子学習状況調査」(4,5年生)の結果が届きましたので、概要をお知らせします。

☆ 大きく上回っている(10ポイント以上) ◎ 大きく上回っている(5ポイント以上10ポイント未満)
○ 上回っている(1ポイント以上 5ポイント未満) - 同程度(±1ポイント未満) ▽ 下回っている(1ポイント以上)

(1)全国学力・学習状況調査の結果より

【全体と領域別の比較】(全国平均正答率との比較)

	国語
全体	◎
知識・技能	○
思考・判断・表現	☆
話すこと・聞くこと	◎
書くこと	☆
読むこと	☆

【全体的な傾向と考察】

	算数
全体	☆
知識・技能	◎
思考・判断・表現	☆
数と計算	☆
図形	◎
変化と関係	☆
データの活用	◎

- 安定して高い正答率であり、無回答率が低い。
- 教科や項目等によって大きなばらつきはない。
- 授業における理解や定着が概ね満足できる状況であると判断できる。
- 繰り返し学習することで定着が図れる事項について課題が見られる。
- 学習したことを生活に結び付けたり、日常生活の中から学習したりすることに課題が見られる。
- 知識を活用して、関連付けたり比較したりしながら自分の考えを明確にして表現することに課題が見られる。



【教科別結果を踏まえた課題と考察】

国語

- 【知識・技能】①言葉の特徴や使い方に関する事項 ○漢字を文の中で正しく使う。→「きょうぎ」「なげる」を漢字で書く。(短答式)
○文の中における主語と述語の関係を捉える事項→「かがやいています」の主語を適切に選択する。(選択式)
- 【思考・判断・表現】 ①話すこと・聞くこと ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。(選択式)
②書くこと ○自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。(記述式)
③読むこと ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える。(選択式)

<考察>

- ・設問別に見ると、概ね全国並びに県全体平均正答率を上回っているが、設問によって下回るものも見られる。特に知識・技能を問う問題で下回っている。その中でも「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題、「文の中における主語と述語との関係を捉える」問題などの「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がある。
- ・思考・判断・表現を問う問題は、資料を活用して表したり、目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが相手に伝わるように工夫して表現する力を問う問題や、物語文において叙述を基に文章を読み適切に理解する問題に課題がある。
- ・今後は現状の力を生かしながら、「言葉」への意識を高くするとともに相手意識をもって読んだり表現したりする力をつけるための指導が必要である。また、生活と学習を結び付けたり、学習したことを生活の中で活用させたりしながら定着を図る指導が必要である。

算数

- 【知識・技能】①図形 ○直径や円周の長さ円周率の関係についての理解(選択式)→円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ。
②変化と関係○速さの意味についての理解(短答式)→家から図書館までの自転車の速さが分速何mか書く。
- 【思考・判断・表現】①図形 ○球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す(短答式)
→直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。



- ②変化と関係 ○道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。
- ③データの活用 ○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する。
- 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する。

<考察>

- ・全ての設問において、全国並びに県全体平均正答率は概ね上回っているものの、校内の比較においてはやや正答率が低い問題がある。
- ・与えられた数値や情報を手がかりに、既習の知識を活用して考えて適切に回答することに課題がある。
- ・自分の考えや回答に対して、言葉や数を用いて数学的に理由を説明することに課題がある。
- ・グラフや表から必要な数値を読み取り、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見だし、条件に当てはまることを言葉や数を用いて記述したり、題意を理解して式に表すことに課題がある。
- ・今後は、情報の関係性に着眼して整理して考えたり、既習事項を関連付けて説明したり、図やグラフなどを活用して、それらを条件に合わせて適切に読み取ることができるようになり、必要な情報を取り出して、筋道立てて考え、説明できるように指導することが必要である。

【児童質問紙の結果を踏まえた考察】

- ・概ね学習の必要性は理解していて、家庭学習や宿題にも意欲的に取り組んでいる。
- ・多くの児童が自分の良さを自分で認めたり、先生に自分の良さを認めてもらっていると感じている。
- ・家庭でのテレビ、ゲーム、スマホ等の視聴・使用時間や約束事に関しては時間や状況にばらつきが見られる。
- ・多くの児童が、将来に夢や目標がある、毎日の生活で幸せな気持ちになると回答している。
- ・生活においても学習においても、正しい判断や理解はできている。
- ・多くの児童がICT機器を活用することが学習の役に立つと考えている。
- ・国語や算数について、教科が大切で、社会に出た時に役に立つと考えている。
- ・全体的に概ね全ての設問で肯定的な回答の傾向が見られる。学習も学校生活も前向きに取り組んでいることが数字からうかがえる。
- ・今後も一人一人に寄り添った支援を通して、良さを伸ばし個人の成長を促すとともに、集団での学びを支えていく必要がある。



(2)とちぎっ子学習状況調査の結果より

【教科全体】 栃木県平均正答(%)率との比較 **【傾向と考察】**

	国語	算数	理科
4年生	○	◎	○
5年生	○	☆	◎

- ・両学年とも全ての教科において、安定して高い正答率である。
- ・教科や項目等によって大きなばらつきは見られない。授業における理解や定着が概ね満足できる状況であると判断できる。

【観点別】 **【傾向と考察】**

4年生	国語	算数	理科
知識・技能	▽	◎	○
思考・判断・表現	○	◎	○
5年生	国語	算数	理科
知識・技能	○	☆	◎
思考・判断・表現	◎	☆	◎

- ・両学年とも、県との比較において、思考・判断・表現に関する設問の方が正答率の割合が高くなる傾向にある。
- ・知識・技能に関する設問において、国語では特定の漢字の書き取りの正答率が低く、無回答率が高い。算数では概ね高い正答率だが、特定の単元や項目で正答率が低いものがある。
- ・思考・判断・表現に関する設問において、国語では物語文の読み取りに課題が見られる。算数や理科では、理解していることを根拠を基に説明したりデータを活用したりする設問に課題が見られる。

【領域別】 **【傾向と考察】**

国語	話す 聞く	書く	読む	言語の特徴 や使い方	情報の 扱い方	我が国の 言語文化
4年生	◎	☆	○	▽	◎	▽
5年生	◎	☆	▽	○		○
算数	数と計算	図形	測定	データの活用		
4年生	○	☆	☆	☆		
5年生	☆	▽	☆	☆		
理科	エネルギー	粒子	生命	地球	理し説明するなど「知識を活用して思考し書いて説明する」設問やグラフなどのデータを適切に読み取り、与えられた情報から判断して回答する設問に課題が見られる。	
4年生	○	◎	▽	▽		
5年生	☆	○	◎	◎	・理科ではどの設問に対しても無回答率が低い。	

- ・両学年とも、全教科概ねよい傾向が見られるものの、国語において、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書く設問や文の中における修飾と被修飾の関係を捉える設問で正答率が低くなっている。
- また、読むことについて叙述を基に登場人物や場面について適切に読み取り理解することに課題が見られる。
- ・算数では両学年とも既習の知識を活用して自分の考えを整理し説明するなど「知識を活用して思考し書いて説明する」設問やグラフなどのデータを適切に読み取り、与えられた情報から判断して回答する設問に課題が見られる。
- ・理科ではどの設問に対しても無回答率が低い。

・今後は現状の力を生かしながら、「言葉」への意識を高くし、相手意識を持って読んだり伝えたりする力を高める必要がある。また、学習と生活を結び付けて考えさせたり、生活の中で学ぶ機会を意識させながら指導をすることが大切だと考える。

【児童質問紙の結果を踏まえた考察】

- ・概ね学習の必要性は理解していて、家庭学習や宿題にも前向きに取り組んでいる。
- ・多くの児童が毎日の生活が充実していると感じていて、7割以上の児童が自分にはよいところがあると肯定的に回答している。
- ・失敗を恐れず挑戦しようとする意欲はあると回答した児童は7~8割程度であり、6~7割程度の児童が自分の発言や行動に自信を持っていると回答している。
- ・思いやりを持って接していると肯定的に回答している児童は8割以上である。
- ・将来の夢や目標があると回答している児童は7~8割程度である。
- ・家族と将来について話をするのは6割程度であり、家族には自分のほめてもらいたいことをほめてもらっていると感じているのは8割から9割程度であり、自分は家族の大切な一員であると感じているのは9割程度である。

以上、両調査についておおまかに考察をしました。結果は対象学年のものですが、この結果は緑小の総合的なものであると受け止めています。学力調査で測れる力は学力のほんの一部ではありますが、私たちはそこから学ばなくてはならないと考えています。そのため、結果の分析は全職員で行い、そこから得た成果と課題は当該学年だけでなく今後の全学年の指導に生かしてまいります。そして、子供たちが持っている力を信じて伸ばすことができるよう今後も努力し続けたいと考えています。これからも学校とご家庭が連携し、子供たちのよりよい成長を目指すことができますようご協力よろしく申し上げます。

【お願い】・残暑が厳しい日がしばらく続く予報となっています。WBGTの数値により外での活動を制限することもあります。ご家庭でも水筒の持参や睡眠時間の十分な確保などご協力よろしく申し上げます。また、7月に市の「熱中症対応マニュアル」が改訂され、「熱中症特別警戒アラート」発令の際は、市により外での活動や学校休業が検討され、対応について市よりすぐるで連絡があることとなりました。ご承知おきください。・2日から13日まで特設日課としているため、下校時刻が変更になっています。詳しくは下校時刻表でご確認ください。

